

佐那河内中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

小中学校9年間を見通した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
豊栖 牧 (英語主任)	校長:倉橋 誠一 教頭:武知 一誠 教務・1学年主任・数学主任:堀岡 暁美 2学年主任:竹内 正行 3学年主任・研修主任:長楽 真裕美 国語主任:吉川 奈央 生徒指導主任:高橋 理駆 学力向上担当 中井木 の実

校長

倉橋 誠一



【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学校生活は落ち着いており、授業も真面目に取り組むことができている。提出物はほとんどの生徒が提出できている。 ●家庭学習が不十分なため定着が不十分である。	・自ら課題を設定したり、仲間と協働したりしながら、課題解決や探究に取り組むことができる。 ・宿題に時間をかけて丁寧に取り組むとともに、タブレットドリルや自主学習ノート等を活用して復習し、知識技能を身に付けることができる。 ・読書に慣れ親しみ、言語活動の基礎となる言語能力を高め、日常生活の中で活用することができる。	・授業中の発問等を工夫して、生徒達を夢中にさせる授業展開を考える。 ・休み時間や放課後等に「質問教室」を開催することで、生徒が気軽に質問することができる場を設ける。 ・タブレットや教材を有効活用する。 ・「学習の手引き」などを活用し、家庭との連携をはかる。	・ミライシード(タブレット学習)の宿題を取り入れ、家庭学習を充実させる。 ・習熟度に応じて個別指導に対応し、生徒の学力向上の機会を増やす。 ・個別に声かけをし、質問しやすい雰囲気をつくる。	・MetaMoJiを活用したレポート作成が定着し、特に2・3年生は工夫が見られた。 ・タブレットを活用した授業の実践が進み、生徒の理解促進に寄与した。 ・ミライシードの活用頻度が少なく、復習機会が十分確保できなかった。	・生徒の積極性・創造性をさらに向上させる授業展開を工夫する。 ・ミライシードやプリントを定期的に課題として取り入れ、家庭学習の時間を増やす。 ・学習習慣の定着が不十分な生徒には、教科担任と連携し、個別指導を強化する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペア学習やグループ学習を取り入れ、効果的に学習している。聞く態度がよく身につけている。 ●記述式の問題を苦手とする生徒が多い。	・タブレットを活用し、必要な資料を集めたり、関連する情報を集めたりして考えを比較し、整理し、自分の考えをまとめることができる。 ・記述式の問題に対して、伝えたいことや考えを整理して分かりやすく書くことができる。	・発問を工夫し、生徒が主体的に考え、判断し、表現するような授業づくりに取り組む。 ・プレゼンテーション等をする機会を設け、調べたり、自分の考えをまとめ発表したりする時間を増やす。 ・授業や定期テストで記述問題を出題し、粘り強く取り組む姿勢を身につけさせる。	・授業の中で、意見交換をしたり、相談し合ったりする時間をつくる。 ・限られた時間内で自分の考えをまとめて発表(表現)する機会を増やす。	・ペア・グループ学習の増加により、説明する機会を適切に設定できた。 ・ICTを活用し、情報収集・整理やグループ活動が活発化されるとともに、ポスター作成など、表現活動の機会が増えた。 ・週1回の新聞感想文作成を継続したことにより、文章表現力が向上した。	・成果物の発表の機会を設けたり、自主勉強ノートコンテストを継続したりして、学び合いを促進し、生徒の表現力向上を図る。 ・各生徒が1回以上プレゼン発表を行い、表現力の向上を図る。 ・学活で日直の1分間スピーチを導入し、発表の機会を増やす。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○英検取得に対する意欲をもつ生徒が増え、昼休みや放課後にも学習している。 ●学習に積極的であるが、結果がついてこない。 ●テスト前における家庭学習の時間にばらつきが見られる。	・英検の受験率80%以上である。 ・自分の課題を自ら見つけ、目標を定め、計画や見直しを立てて学習等に取り組むことができる。 ・自分に合った学習計画や学習の仕方を工夫することができる。	・昼休みや放課後に、英検対策教室を設ける。 ・タブレットドリル等を活用し、生徒個々のレベルに応じた教材に取り組ませる。 ・自主勉ノートやエラーズノートを活用することで、生徒が自ら学ぶ姿勢を育てていく。	・テスト前だけでなく、普段から昼休みや放課後に質問しやすい状況をつくる。 ・ミライシード等を活用し、生徒が自らの疑問や課題を確認できる機会を増やす。 ・タブレットドリルを朝の学習で実施する。 ・タブレットを活用して家庭学習の定着。	・英検受験率は約90%であり、特に中3の3級以上合格者は80%に達した。 ・宿題への真面目な取り組みは1年生で70%、2・3年生で90%と学年による差があった。 ・テスト期間中の家庭学習時間の調査と声かけにより、学習時間の増加が確認された。	・英検教室を継続し、更なる合格者増を目指す。 ・さらに多くの生徒を巻き込み、学び合いの場を増やす。 ・タブレットを活用し、個々のレベルに応じた学習を推進する。

令和6年度 学力向上ロードマップ

